



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
6/8 (月)	+ 900	▲ 600	+ 300	国庫短期証券発行償還 (3M)	社債等買入 ▲300 国債補充供給 +900		日: GDP (1Q) 貿易収支 (4月)
6/9 (火)	+ 500	+ 3,000	+ 3,500				米: 貿易収支 (4月)
6/10 (水)	トン	+ 2,000	+ 2,000	国庫短期証券発行償還 (6M)	共通担保 ▲ 8,000		米: CPI (5月)
6/11 (木)	トン	▲ 11,000	▲ 11,000	国債発行 (30年)			米: PPI (5月) 欧: ECB 政策金利発表
6/12 (金)	▲ 500	+ 11,000	+ 10,500	各種財政資金の支払い 源泉税揚げ			日: 鉱工業生産 (4月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比5兆6,100億円減少の4兆46兆5,200億円から始まった。その後、国債買入オペや税・保険揚げ、交付税の払い等の要因により増減し、5日は4兆37兆8,100億円（速報）で越えた。
無担保コールON物加重平均金利は週初、0.726%から始まり、その後も概ね横ばいで推移した。
ターム物は1W~3W物0.732%~0.910%のレンジ、1M~3M物0.925%~1.310%のレンジで出が見られた。
来週の予定は、国内では8日にGDP (1Q)、貿易収支 (4月) の公表、海外では9日に米貿易収支 (4月)、10日に米CPI (5月)、11日にECBの政策金利発表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.700 ~ 0.728
1M	0.95 ~ 1.10
2M	1.00 ~ 1.15
3M	1.05 ~ 1.20
6M	1.20 ~ 1.40

<レポ>

足許GCは週を通して0.75%~0.755%の狭いレンジでの出合いとなった。買入れオペや短国の発行の影響もほとんど見られず、水準に変化はなかった。
SC取引は2年470~482回債、5年155~185回債、10年356~372、378~381回債、20年110~130回債、30年86~90回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.70台
CP 3M	1.0 ~ 1.2

<CP>

今週の入札発行総額は7,490億円で、週間償還額の7,330億円を上回った。発行残高は、先週末時点の24兆8,718億円から、6月4日時点で25兆2,781億円へと増加した。発行市場では、卸売業・石油業・輸送用機器をはじめとする幅広い業種で、大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で0.9%台から1.0%台、3ヶ月物で1.1%台から1.3%程度と、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約2兆4,000億円となっている。発行市場は、一部の企業で四半期末の有利子負債圧縮を踏まえた発行抑制が想定されるものの、5・10日に伴う相応の発行が見込まれる。発行レートは、政策決定会合の日程が近づいていることから、引き続き水準を慎重に見極める展開となるだろう。

<TDB>

29日の3M (第1385回債) の入札は、最高落札利回り0.9327% (前回債0.8964%)、平均落札利回り0.9242% (前回債0.8835%) となった。
来週の入札は9日に6M、12日に3Mが予定されている。